

おんな

八瀬永太郎

おん私たちの小さな物語。

# 踏切

暑っついねえ〜 どこ行く？

眠眠？ うん、いいよ。

餃子食べたかったんだ、ビール飲むでしょ？  
もう、喉カラカラだもん。

うん、ここの踏み切り、長いよねえ。

そうだ、お盆休みどうするの？

また田舎に帰っちゃおう？

いいなあ

私、東京だから田舎無いし。

山とか川とかさあ、もう緑が眩しいくらいのとこ行ってみたい。

三日で飽きる？

うん、でもいいなあ。

行ってみたいなあ。

一緒に…。

うん、餃子とビールだよね、お腹空いたもんね。

# 思慕

ねえ、もう止めておきなよ、飲み過ぎだっば。  
そりや、飲ますのが商売だけどさあ…。

どうしたの？

今日は何か変だよ？

仕事で、なんかあった？

あっ…、女だ。

彼女と、喧嘩したんでしょ。

判るわよ、そりゃ。

あのさあ…、悪口じゃないのよ。

ただ、あの人はやめた方がいいよ。

そりや素敵な人よ。

綺麗だし、センスも良いし。

上品で、アタシらとは大違い。

でも…。

ヘンな意味じゃないよ。

なんか、合わないっていうか…。

良くないって気がする。

…、あなたには。

ヘンな意味じゃないわよ。

ただの、おせっかい。

…ねえ、聞ってる？

だから、飲み過ぎだっつてば。

# 春風

思うんだけどさあ。

人の心って、春風みたいよね。

ある日突然、心地良く頬を撫でて、優しく身を包んでくれるの。

でも春の風は、気まぐれだから。

暖かい南風かと思えば、冷たい北風に変わるし。  
じつとしてなくて、気が付いたら居なくなってる。

けど、風を追いかけても無駄でしょ？

風を恨んでも仕方ないじゃない。

だから、今吹いている風を楽しもうって。  
うん、そう決めたの。

えっ？ 泣いてないよ。  
元気だもん、私。

# 誘惑

なんかさあ、冬  
の海っていいよねえ。  
好きだなあ。

だって、誰もいないしさあ。

せいせいするって言うか、  
なんかスッキリするじやない。

寒い？

ごめんね、付き合わせちやつて。

あなたしか、頼める人がいなくて…。

いつだっけか？

みんなで来たよね、夏に。

楽しかったあ。

あの人、酔っ払って溺れそうになるし……。

ほんと、馬鹿だよね、アイツ。

笑っちやっただ……。

うん、意味無いよね、こんな話。

忘れなきやダメだよね。

でも、こんな詰まらない話が、どうしても忘れられないの。

馬鹿だよね。

ごめんね、付き合わせちゃって…。

せつかくのお休みなのに。

ねえ、なんか暖かいもの食べに行こうか？  
奢るからさあ、行こうよ。

# 坂道

そうそう、その坂を上がっておいで。  
そしたら直ぐだから。

俺？ 坂の上の右側。

手を振ってるだろ、見える？

えっ？ なに？

服？ どうかしたの？

いいじゃん、白、似合ってるよ。

そんなこと無いって、いいと思うよ俺。

えっ、おふくろ？

そんなの気にしないって。

大丈夫だよ、ちよつと顔見せるだけなんだからさあ。  
会わせろって、煩いからさあ。

お茶でも飲んだら、すぐに出掛けるし……。  
だから、変じやないって。

だって、バツチリ決めて来たら、逆にアレだろ？  
いや、そんな意味じゃなくてさあ。

うん、大丈夫だから。

ほら、その坂を上がっておいで。

うん、待ってるから。

# 彼 岸

ふうく、疲れたねえ。

うん、遠いからねえ。

ちゃんと手洗って、うがいしてよ。

ねっ、さっきのケーキ食べようか？

ほら、美味しそうでしょう。

どっち食べる？

じゃ、ママはチーズケーキ！

今日は、お利口だったわねえ。

ママ、感心しちゃった。

そっか、もう六年生だもんね。  
早いねえ。

うん、桜きれいだった。

ちようど、満開で…。

きつとパパも、お花見してるわ。

好きだったビール、お供えしたから…。

# おんな

著者・八瀬永太郎

2011年12月20日